

東大島文化センター 施設紹介 part 1

研修室・会議室



東大島文化センターには、机と椅子が備え付けの会議室が3室、研修室が5室あり、町会・各種団体の会議・研修をはじめ、趣味のサークル活動（手芸・学習会など）にご利用いただけます。ご利用についてお気軽にご相談ください。

※施設は有料です。施設・時間帯により利用料金が異なります。

次回は、レクホール、AVホールの紹介をします！

施設名	定員	施設名	定員
第1研修室	78名	第1会議室	30名
第2研修室	24名	第2会議室	30名
第3研修室	21名	第3会議室	18名
第4研修室	45名	※第1・第2会議室、 第2・第3研修室は つなげて利用可能です。	
第5研修室	27名		

季節の展示 ご案内 2

第10回 東大島セタ飾り

6/28(日)～7/8(水)

※7/6(月)は休館。

9:00～21:00

ロビーに大きな笹を展示します。短冊に願い事を書いて飾りませんか？（短冊はなくなり次第終了）



第28回 東大島囲碁大会

今年も開催します！都内では最大規模の「東大島囲碁大会」。詳しくは、「カルチャーナビ8月号」、東大島文化センターHPに掲載します。

団体戦

10/10 (土) 12:30～

個人戦

10/11 (日) 9:30～



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団

江東区東大島文化センター

電話 03(3681)6331

FAX 03(3636)5825

〒136-0072

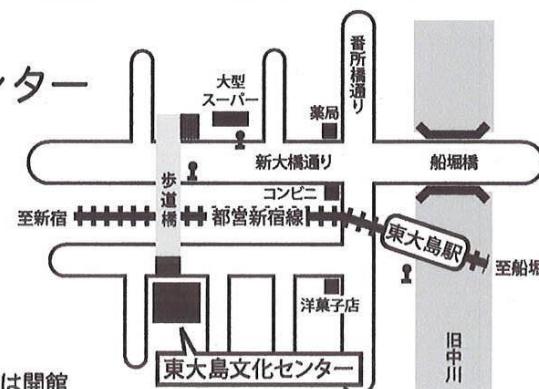
江東区大島 8-33-9

【交 通】都営新宿線「東大島駅」

大島口より徒歩5分

【休館日】第1・3月曜日休館

ただし国民の休日にあたる場合は開館



Center News

発行:2015年6月 江東区東大島文化センター

東大島文化センター ニュース



index

page

- ① 第28回ふれあいまつり
- ② 新コラム・季節の展示ご案内
- ③ 連載「ぶらり小名木川」
- ④ イベントのご案内



第28回 ふれあい まつり

8/23 (日)

場所:
東大島文化センター

ホールイベント

- ◆環境戦隊
ステレンジャー・ショー
- ◆ミニプラネタリウム



ロビーイベント

- ◆ベリーダンスショー
- ◆東大島女声コーラス
- ◆BoroCopSHIBA ほか

一日体験

- ◆ラクホリで消しゴムスタンプ体験
《エコパックを作ろう》
- ◆手作り石鹼を作ろう
- ◆レインボールーム体験
- ◆東工大 Science Techno による出張教室ほか



新コラムスタート！

東大島周辺の生き物たち

ボラが教える春の訪れ

桜が咲くころになると旧中川の水辺にも春が訪れます。冬場は、特有の透明感のある水の中を覗いてもあまり生物は発見できず、無機的な印象を受けてしまうこともあります。しかし、この時期となると、少しずつに水中が騒がしくなってきます。春は、小さな生物が主役となる季節であり、ハゼの仲間やボラなどの稚魚やエビの仲間など甲殻類の赤ちゃんが水際に姿を見せるのです。

中でも、簡単に見つけることができるのがボラです。ボラの幼魚は、銀色の体を水面に輝かせながら、大きな群れを作り水辺へ押し寄せます。彼らは岸壁際や岩に付着している藻類や、デトリタスという有機物などを食べて育つため、えさを求めて岸際に集まるのです。

ボラは出世魚としても知られ、呼び名が成長に従って変わります。ちょうどこの時期の幼魚は、オボコヤイナッコと呼ばれる大きさで、その後スバシ



KOKOPELLI+ 代表 寺田浩之

リ、イナ、ボラ、トドと成長していきます。この呼び名は昔から人々に親しみを持たれているようで、イナは粒でさっぱりしている若い衆の様子を表す「鱈背（いなせ）」という言葉に、トドは文字どおりこれが最後という意味を持つ「トドのつまり」という言葉に使われています。

また、食用としても利用されています。カラスミはこのボラの卵巣から作られますし、その身は東京ではあまり食しませんが、水がきれいな地方では、刺身として好まれています。ボラは、昔から人々の生活や文化と密接に関わっていた魚なのです。

旧中川には、大小様々な大きさのボラを豊富に見ることができます。このボラがスズキや、ウナギなどの肉食魚や、鶴やサギ類などの魚食性の鳥類のエサとなり生態系のピラミッドを支えています。そういう意味でとても大切な魚なのです。水辺で見かけたら、大きく育つようそっと見守ってあげてください。

季節の展示 ご案内 1

東大島文化センター 1階ロビー★無料でご覧いただけます。

第10回

「水辺」への招待展

～なつかしき「旧中川」のいきもの～

7/18(土)～8/2(日)

9:00～21:00 (最終日は 15:00まで)

東大島文化センターの地域特性「水辺」をテーマにした企画展。

旧中川は、荒川の完成によって分断された中川の下流部分にあたります。普段は南北の水門によって川の流れが無く、その特殊な環境から意外な生物も生息しています。

展示期間中、旧中川で捕獲した魚や海老、昆虫等を写真や飼育水槽にて展示します。また、7月26日より最終日までは普段見ることができないミズクラゲのボリップや幼生の飼育水槽を追加展示します。

夏休みの自由研究の参考にぜひご来館ください。

7/26日 特別イベント開催

①水辺のいきもの観察会

旧中川で水生生物の採取と観察を行います。

《時間》 10:00～12:00 《場所》 旧中川河川敷

②ミニ講習会

旧中川に生息する魚類・甲殻類・鳥類等について講義を行います。

《時間》 13:00～14:00 《場所》 1階ロビー

《対象》 ①②ともに小学生～中学生

※小学3年生以下は

保護者同伴

《講師》 寺田浩之
(KOKOPELLI+代表)

参加無料

申込み 先着順

①②各 30名



小名木川リバーガイド俱楽部

会員 清水 健二

やおたまじぞうそん 『八百靈地蔵尊』について

私が生まれ、育ち、現在住んでいる森下五丁目は大横川と小名木川が交差する北西角に位置して、南は小名木川（大富橋と新高橋の間）、北は墨田区、東は大横川、西は三つ目通りに囲まれています。猿江橋の西詰めにお地蔵さんが祀られています。このお地蔵さんは昭和20年（1945）3月10日の東京大空襲で犠牲となった森下五丁目（旧深川区高橋五丁目）住民789名の御靈を供養するために昭和21年（1946）に住民有志、遺族により建てられ、以後町会でお守りしている『八百靈地蔵尊』と申します。

戦後70年を迎える平成27年3月に地蔵尊の隣りに、かつてこの町に住んでいた証を後世に残すとともに、未永く御靈を供養し、恒久の平和を祈念するために犠牲者の氏名を刻銘した墓誌の建設を有志相談り企画し、町会として建立し3月8日に除幕しました。

戦災直後に焼失を免れた戦時国債購入者名簿をたよりに『高橋五丁目戦災犠牲者俗名録』という長さ6mの巻物に氏名を記入して歴代町長が大切に保管していたので『八百靈の礎』あるいは『森下五丁目の礎』として残すことが可能となりました。この『東京大空襲犠牲者墓誌』は町会独自に犠牲者を刻銘しているのは江東区内、東京都内で初めてであり、他に例を見ないことだと思います。

もう一つ組んでいる事業が旧高橋5丁目の『戦前居住者復元図』を現在作成中です、70年以上も経った昔のことを復元するには情報が少なく時間との闘いです。居住地（旧住所）に住んでいた方々の情報を集めております、地図の空白を少しでも埋めたいですので何か情報等がありましたらお知らせ下さい、宜しくお願いします。

犠牲となった家族がどこに住んでどのような暮らしであったのか、町の風景が少しづつ見えてきたり、町の空気が少しづつ感じられます、ガラス工場、大横川沿いの材木倉庫、大工、左官屋、米屋、駄菓子屋、そば屋、魚屋、八百屋、床屋、銭湯等々、町の職業を分析すると町がより具体的、立体的に見えてくるのではないかと思います。

これらの暮らし、生活、営みが70年前の3月10日の2時間30分で消滅してしまいました。二度と繰り返してはなりません。

戦前生まれの体験者と戦後生まれの若い世代をつなげるのが、戦争のない平和を次の世代へつなぐのが、私達の役割だと思います。

江東区の川、運河、橋のそばにひっそりとお地蔵さんが祀られています。このお地蔵さんは東京大空襲で犠牲となった御靈を供養するために地域の皆様が建立しました。戦後70年の節目の年に平和について思いを新たにしました。

平和は 歩いてくれない

